

圧倒的な性能と品質、洗練された使いやすさ 熱衝撃試験器のグローバルスタンダード ShockEvent

1000 サイクルのデフロストフリー運転をはじめ、精度の高い試験を保証する独自機構の数々。

ジャーマンエンジニアリングに磨かれた、高性能・高機能熱衝撃試験器 ShockEvent が環境試験の新しい時代を開きます。



※写真は欧州仕様。オプション装着など日本仕様と異なる場合があります。

短い温度復帰時間と均一な温度分布、省エネと低い環境負荷 ShockEvent が実現した高性能と環境性能の両立

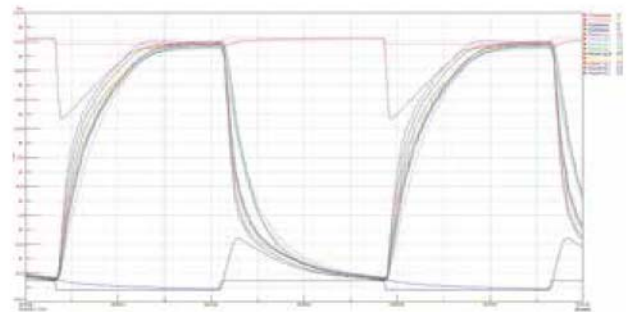
高度な制御が求められる MIL 規格をはじめ、グローバルな試験規格にも余裕を持って対応できる高性能。
地球温暖化係数が従来の 1/3 となる冷媒「R449A」の採用など、将来へ向けたコンセプトが随所に現れています。

有負荷時でも短い温度復帰時間

有負荷 12kg の試料時、MIL-STD 833K 1010.9 コンディション D でも 15 分以内の試料温度復帰性能を実現。

すぐれた温度分布性能

高度に計算され最適化された槽内の空気の流れが、優れた温度分布を保証し、試料に均一な温度ストレスを与えることができます。

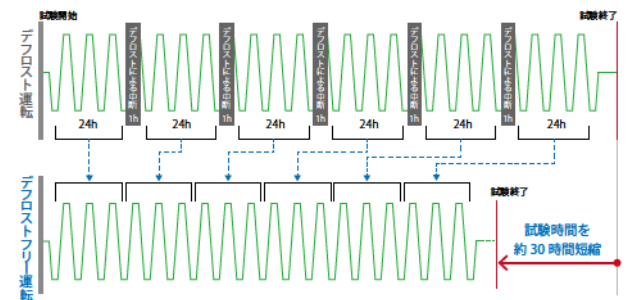


MIL-STD 833K 1010.9 コンディション D 準拠 (T/120/V2)

試験条件	測定方法
高温さらし : +200°C 30 分	4kg の試料を載せた棚を上中下 3 段に分配。
低温さらし : -65°C 30 分	測定用の 9 個の IC には熱電対を埋め込み、
試料 : IC 12kg	上下段 4 隅に各 4 個、中段中央に 1 個配置し、
	復帰時間および分布を測定。

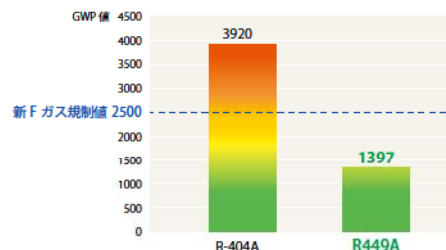
1,000 サイクルのデフロストフリー運転

全てのモデルに独自の機構を設け、長時間のデフロストフリー運転を可能に。圧縮空気を使わずに試験時間を大幅に短縮しました。



低 GWP 冷媒「R449A」にもいち早く対応

欧州新 F ガス規制で規定された地球温暖化係数 (GWP) 2500 を大きく下回る低 GWP 冷媒、R449A (GWP 値 1397) を採用。期限とされる 2030 年以降も安心して使用頂けます。



高性能でありながら省エネルギー

省エネモードの使用により大幅な省エネルギーを達成。同時に CO₂ の発生も大幅に軽減します。

さらし時間が長い試験においては、試験に使用していない槽を加熱・冷却しないことで無駄な電力の使用を大幅に削減。試験サイクルや試料の種類と量により、最大 37% の省エネルギーを達成しています。